

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がん診療最前線

多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう

第15回目となる北信がんプロ県民公開シンポジウムは2021年11月23日、福井大学文京キャンパスで行われました。今回は「多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう」をテーマに、同大学医学部附属病院の専門医らがそれぞれの立場から最新の事情を紹介。医療の進展に伴うがん治療の新たな在り方について、会場を訪れた約50人、インターネットでの同時配信で視聴した延べ300組が認識を新たにしました。

※「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」は、北陸3県、新潟県、長野県の6大学が連携し、がん専門医療者の育成を図るプロジェクトです。



納得できる医療を求めて。

主催

超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成
(北信がんプロ)

格闘によりて 人と社会の未来を拓く
国立大学法人
福井大学

共催：福井新聞社
後援：福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、
福井県病院薬剤師会、福井県がん診療連携協議会
NHK福井放送局、FBC、福井テレビ
お問い合わせ：福井大学医学部腫瘍病態治療学分野
〒910-1193 永平寺町松岡下合月23-3
Tel.0776-61-8857 Fax.0776-61-8656
gpro-fukui@ml.u-fukui.ac.jp

本シンポジウムの動画は、福井大学北信がんプロの
ホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。

【期間限定：令和4年3月31日まで】

視聴はコチラ！→



がんプロ福井大学

司会進行・開会挨拶

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター
センター長 廣野 靖夫



現在の日本ではがんは2人に1人がかかる病気ですが、新型コロナウイルスの影響で福井県内でもがん検診の受診控えが起こっており、発見が遅れないかを心配しています。

内容を例年よりも幅広くしました。是非多くの方に知っていただければ幸いです。これからも福井大学は最新のがん治療の情報をお届けします。

子宮頸がん

子宮頸がんが予防できる
ワクチンを知っていますか？

福井大学医学部附属病院産科婦人科
准教授 黒川 哲司 先生



わが国の20歳代〜30歳代の女性で見た場合、人口10万人当たりの子宮頸がん発症率はこの約30年で約1.6倍に増加しています。他方で出産年齢のピークは30歳代前半で、出産年齢の山が子宮頸がん発症年齢の山と重なってしまいます。

子宮頸がんは乳がんとは異なりワクチンによる予防が可能です。ワクチン接種率の高いスウェーデンでは、10〜30歳の接種者のがん発生頻度が低下しているとの報告もあり、特に若い時のワクチン接種ががん予防につながっていることを示しています。

日本でも2013年4月、12歳〜16歳を対象に国指定の定期接種ワクチンプログラムとなったものの、副反応の報道などを機に積極的勧奨が一時中止になった経緯があります。このため、HPVワクチンを導入している諸外国と比べると日本の接種率は5%にも届かず、極めて低いのが現状です。

確かに、子宮頸がんワクチンにも、痛み、発熱、脱力など他のワクチンと同様にさまざまな有害事象のリスクはあります。万が一、有害事象が起きた際は専門の医療機関を受診する体制が整えられており、治療費支給などの救済制度も充実しています。産婦人科医としては子宮頸がんで苦しむ方を一人でも減らしたいという想いから、ワクチンでの予防を推奨します。接種をするかどうかご家族で話し合ってくださいと思います。

今年2月にはより効果の高い9価ワクチンが国内発売となり、11月にはワクチン接種の積極的勧奨が再開されるニュースも報道されています。接種について迷われていましたら、どうぞ当病院長の担当医にご相談ください。

頭頸部がん

頭頸部がん（口の中やのどのがん）最新治療と予防について

福井大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科
准教授 成田 憲彦 先生



頭頸部がんとは具体的には、口腔（こうくう）、舌、咽頭（のど）、鼻・副鼻腔、甲状腺、耳下腺・顎下腺などにできるがん、がん全体の5%程度を占めています。日本では患者数が増加しています。頭頸部がんは早期であれば、手術または化学放射線治療（抗がん剤＋放射線）のどちらか単独により治療します。従来は化学放射線治療を行っていた例でも、全身麻酔で口の中から腫瘍の切除を行う「鏡視下咽喉頭手術」によって根治するケースも増えてきました。小切除だけでなく体への負担も少なくなりました。一方、進行がんには手術＋化学放射線治療が必要で、進行例の手術では拡大切除を行い、切除した場所には腕やお腹から皮膚・筋肉を移植して作り直します。しかし部位によっては喋れなくなったり、ご飯が食べられなくなったりします。やはり早期発見が大事です。

切除できない再発転移については、セツキシマブやニボルマブといった新しい抗がん剤で予後が改善されています。特定の波長の光に反応する光感受性物質をがん細胞に集積し、光でがん細胞を消滅させる「光免疫療法」も広まりつつあります。

小児がん

小児がんを知って・理解して・共感を

福井大学医学部附属病院小児科
講師 鈴木 孝二 先生

日本で1年間にがんと診断される19歳以下の患者数は約3千人と推計されています。その主な発生部位と頻度は、脳腫瘍19%、白血病40%、悪性リンパ腫10%、神経芽細胞腫8%、骨のがん3%などとなっています。

小児がんの初めの症状として、発熱、咳、嘔吐、頭痛、下腹痛などのほか、元気がなくなったり、おなかが大きくなったりといった状態が挙げられます。いずれも子どもによくみられる症状であるため、小児科に受診後も症状が続く場合には精密検査を受けられるとよいでしょう。



小児がんの治療も大人と同様、がんの種類に応じて手術、抗がん剤治療、放射線治療などを適宜選択しながら進めます。経過によって1年以上の闘病期間となることもあり、当病院内の院内学級では学習支援や復学のための話し合いなども行っています。

突然の入院は子どもにとって日常を切り取る可能性もあります。そのためわれわれは、医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、栄養士のほか、遊びを用いて子どもを支援する専門職「ホスピタルプレイスペシャリスト」などと共に、子どもの成長を妨げないような治療を進めます。患者のきょうだいに共感するメンバーと位置付け、きょうだいの心のケアも合わせて行います。

疾患や病状にかかわらず、成長の過程そのものが子どもの自己実現であると考えます。支え合う人がそれぞれの立場で小児がんを正しく理解し共感することが患者の支援となります。

がんゲノム医療

がんゲノム検査
がん細胞の持つ遺伝子の異常を
治療に結び付けるために

福井大学医学部附属病院がん診療推進センター
助教 松田 安史 先生



がんとは、遺伝子に傷（異常）が起きることで発症する病気です。人間の細胞は分裂して増えていきますが、遺伝子の異常はその際に、遺伝情報を表すDNAのコピーミスが起きること多く発生します。この遺伝子異常ががん発症の可能性を高めます。がんゲノム検査は、この遺伝子異常を調べる検査です。

がんの化学療法を行うときは、まず保険適用の抗がん剤で治療する必要がありますので、治療が進むにつれ薬の効果が薄れたり副作用が現れたりして選択肢が少なくなることが考えられます。そうしたとき、がん細胞の遺伝子異常を調べることで、その遺伝子の機能を標的にした別の治療選択肢を見いだせるのではとの期待から、がんゲノム検査が進展してきました。

当病院で治療中の患者さんで、膀胱がんから転移したリンパ節病変を検査に提出し、見つかった遺伝子異常に対する治療薬が推奨薬剤として挙がったケースがあります。もともと抗がん剤による効果が乏しく、副作用も出ていた患者さんでしたが、治療薬での治療を行うことにより病変は縮小し、それから1年たっても元気にされています。

骨転移

骨転移って骨のがん？
骨転移はチーム医療で治療しよう！

福井大学医学部附属病院整形外科
講師 田中 太晶 先生



現在わが国では毎年100万人以上（福井県の人よりも多い！）が「がん」と診断され、一生に2人に1人が「がん」にかかることから「がんは国民病」と認識されており、また医療の進歩により、がんを経て生き延びる「がんサバイバー」も多くなっています。

骨転移は「転移性骨腫瘍」ともいいますが、原発巣（他の部位で発生したがん）のがん細胞が血管やリンパ管などを通じて骨で増殖する病態であり、骨のがん（骨肉腫など）と発症メカニズムが異なります。四国がんセンターの調査では、乳癌や前立腺癌患者において骨転移はその75%に認められ、珍しい病態ではないことが分かります。

転移性骨腫瘍の治療では、骨転移痛、脊髄圧迫、病的骨折など骨関連事象の予防が最も重要ですが、骨関連事象を生じた場合、必ず手術ではなく、手術の妥当性を評価する「新片桐スコア」などを用いて治療方針を決定していきますが、整形外科だけではなく、他の科との協力は不可欠です。たとえば、肺癌の骨転移によって大腿骨骨折を発症した患者さんの場合、呼吸器内科、整形外科、リハビリ科、緩和ケアなどの複数診療科がチームを組んで治療にあたり、これをMDT（複数の専門職種によるチーム医療）といいます。患者さんの幸せのためMDTによるチームサポートが欠かせません。当院ではチーム医療による骨転移治療を推進していますので、お困りの時には当院にご相談いただければと思います。

がんに対するQ&A
講演で寄せられた質問に
各先生らが回答しました。

Q 中学3年生の子に子宮頸がんワクチン接種を進めたいのですが副反応が心配です。
A 確かにリスクはゼロではありませんが、福井県では子宮頸がんワクチンの相談窓口など受け皿を設けていますのでご安心ください。

Q 小児がん患者の治療に当てる上で、医療従事者の方が大切にされていることは何でしょうか。
A 子どもが主人公であるという共通認識を持ち、本人やご家族としっかり向き合い、復学の時に安心して迎え入れられる環境を作ることです。

Q がんの原因として喫煙がよく指摘されますが、電子タバコはどうでしょうか。
A がんと電子タバコ・加熱式タバコの関係についてのデータは全く不足している段階です。要するに、将来の健康被害が普通のタバコよりも多いか、少ないかは現時点ではまだ誰も知らないのです。その点をよく理解した上でご利用ください。

Q がんゲノム検査を福井大学で受けるメリットは何でしょうか。
A 保険診療で受けられるがんゲノム検査そのものは全国で同じですが、検査結果の解釈とそれを治療に結びつける力が病院ごとに違います。適応外使用や治療施設に精通している大学病院はより検査結果を活かします。

Q 転移性骨腫瘍に対する薬物療法で顎骨壊死になりました。今は治りましたが、将来その部位ががん化しないでしょうか。
A 顎骨壊死の治癒した後の部位ががん化するというデータの報告はありませんので、ご心配なさなくてもよいかと思えます。